

事務事業名	21219 街路樹等維持管理事業													
担当組織	環境経済部 みどり公園担当								担当		公園担当			
組織コード	H29	15	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H29	01	08	04	07	01	01	記入日	平成29年06月01日
	H28	15	06	00		H28	01	08	04	07	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	04	緑と潤いのあるまち										○ 対象		
分野	01	緑地・緑化										● 対象外		
施策	38	潤いのある緑地空間の創造												
事業期間	平成17年度～平成32年度													
根拠法令 通達等											関連計画 施政方針			
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの													
ISO14001	○ 1. 環境創出事業 ○ 2. 施設方針書 ● 3. 環境配慮事業 ○ 4. 対象外													
対象	街路樹植樹路線を利用する人													
事業目的	街路樹の適切な管理を実施する													
事業内容	街路樹の剪定、各駅環内樹木の剪定・消毒、環境空間緑地・緑道内樹木類の維持管理													
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 ()													

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
		執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)		
	街路樹等の適切な管理							
	事業費	49,110	58,853	50,000	60,000	50,000		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0	0		
	起債	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	49,110	58,853	50,000	60,000	50,000		
	人件費	7,191.45	1,506.78	1,780.74	1,780.74	1,780.74		
投入 人員	常勤職員	1.05人	0.22人	0.26人	0.26人	0.26人		
	非常勤職員	0人	0.09人	0.05人	0.05人	0.05人		
	事業費+人件費	56,301	60,360	51,781	61,781	51,781		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H27目標	H28目標	H29目標
						H27実績	H28実績	H29実績
	活動①	業務委託件数	件	業務委託契約件数		10	10	10
	活動②					10	10	-
	成果①	業務委託執行率	%	業務委託報告書提出率		100	100	100
	成果②					100	100	-
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 当該年度は目標を達成することが出来た。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	26年度	27年度	28年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 整然と剪定された街路樹や植栽帯等の清掃・除草により、緑地空間に潤いが生まれ、まちの景観が保たれる。また、道路の視認性も向上するため、交通安全や防犯効果にも有効である。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	26年度	27年度	28年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 樹木の生長時期及び植栽場所から勘案して、隔年剪定を施しており、副次的に維持管理費の抑制が図れている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	26年度	27年度	28年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 維持管理業務を民間企業に委託することで、民間のノウハウを活かした適切な剪定により、みどりの景観向上と道路空間の安全性が図れている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	26年度	27年度	28年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 当該事業により、みどりの景観向上と道路空間の安全性が図れている。

4. 平成28年度中に実施した見直し内容

見直し内容	本年度に実施した業務委託対象の街路樹について、剪定対象数を見直した。
見直しの効果	市道路線毎の街路樹数量の把握が可能になったことから、次年度の業務内容や委託料を見直すなど、ランニングコストの抑制や街路樹管理の精度向上が図れている。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了 <input type="radio"/> 平成28年度で終了
	<判断理由> 本事業の実施により、まちの景観向上と道路交通の視認性向上を図り、さらには、防犯にも効果を期待できるため現状で継続したい。
今後の取組方針	既存の街路樹は、路線毎に整備時期と時を同じくして老木化し、枯死することから、この樹木の維持管理を担っているみどり公園課だけでは、街路樹の長寿命化や更新が図れないことから、街路樹を所管する道路河川課と連携して、街路樹の台帳化と共に街路樹の更新や補植の研究を進めていきたい。 また、歩道改良工事に応じて、「水と緑のネットワーク形成プロジェクト」との整合性を図りながら、街路樹の更新や補植を進めていく。

事務事業名	40486 緑化事務費																				
担当組織	環境経済部 みどり公園課								担当	みどり環境担当											
組織コード	H29	15	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H29	01	08	04	07	H28	01	08	04	07	02	01	01	記入日	平成29年06月06日	

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ																		実施計画候補	
基本目標	04	緑と潤いのあるまち															○ 対象		
分野	01	緑地・緑化															● 対象外		
施策	38	潤いのある緑地空間の創造																	
事業期間																			
根拠法令 通達等													関連計画 施政方針						
事業区分	○ 法定受託事務						○ 自治事務のうち義務的なもの						● 自治事務のうち任意のもの						
ISO14001	● 1. 環境創出事業				○ 2. 施設方針書				○ 3. 環境配慮事業				○ 4. 対象外						
対象																			
事業目的	予算管理シート																		
事業内容	予算管理シート																		
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()																		

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度		
		執行額 (千円)	予算額 (千円)	計画額 (千円)	計画額 (千円)	計画額 (千円)		
	事業費	16,473	23,001	16,701	16,701	16,701		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0	0		
	起債	0	0	0	0	0		
	その他	0	3	0	0	0		
	一般財源	16,473	22,998	16,701	16,701	16,701		
	人件費	3,219.03	2,808.09	2,945.07	2,945.07	2,945.07		
投入 人員	常勤職員	0.47人	0.41人	0.43人	0.43人	0.43人		
	非常勤職員	0.06人	0.02人	0人	0人	0人		
	事業費+人件費	19,692	25,809	19,646	19,646	19,646		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H27目標 H27実績	H28目標 H28実績	H29目標 H29実績
	活動①							-
	活動②							-
	成果①							-
	成果②							-
目標達成 状況 の分析	- : 未設定 <判断理由>							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	26年度	27年度	28年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	26年度	27年度	28年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	26年度	27年度	28年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	26年度	27年度	28年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>

4. 平成28年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了 <input type="radio"/> 平成28年度で終了
	<判断理由>
今後の取組方針	

事務事業名	7585 緑化推進事業														
担当組織	環境経済部 みどり公園課								担当	みどり環境担当					
組織コード	H29	15	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H29	01	08	04	07	02	02	記入日	平成29年06月09日	
	H28	15	06	00		H28	01	08	04	07	02	02			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	04 緑と潤いのあるまち	○ 対象 ● 対象外
分野	01 緑地・緑化	
施策	38 潤いのある緑地空間の創造	
事業期間	昭和54年度～平成32年度	
根拠法令 通達等	戸田市緑化推進条例、緑化推進に関する規則 戸田市緑化推進補助金交付規程 戸田市建築物屋上等緑化奨励補助金交付要綱 戸田市生け垣等設置奨励補助金交付要綱	関連計画 施政方針 戸田市緑の基本計画
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの	
ISO14001	● 1. 環境創出事業 ○ 2. 施設方針書 ○ 3. 環境配慮事業 ○ 4. 対象外	
対象	戸田市で保存樹木を所有している者、生け垣・屋上等を設置する者。	
事業目的	良好な自然と生活環境を確保するため、樹木の保全とあわせて緑化を推進し、緑あふれる住み良いまちづくりを図る。	
事業内容	苗木の配布や緑化に関する補助金の交付を実施するほか、緑化を推進する計画の策定や遂行を図る。	
実施主体	■ 市による単独直営 □ 委託 (□3セク・財団 □ 企業 □ 市民・NPO) □ 協働・協力 ()	

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)
	緑化補助金の交付、苗木の無料配布					
	事業費	12,624	8,242	9,883	9,883	9,883
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他	452	430	630	630	630
	一般財源	12,172	7,812	9,253	9,253	9,253
	人件費	9,862.56	9,862.56	9,862.56	9,862.56	9,862.56
投入人員	常勤職員	1.44人	1.44人	1.44人	1.44人	1.44人
	非常勤職員	0.37人	0.37人	0.37人	0.37人	0.37人
	事業費+人件費	22,487	18,105	19,746	19,746	19,746

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	H27目標	H28目標	H29目標
				H27実績	H28実績	H29実績
活動①	保存樹木補助金交付件数	件	指定された保存樹木に対して交付した補助件数	146	156	152
				156	152	-
活動②	補助金制度PR紙配布回数	回	町会回覧・広報掲載回数	2	2	2
				2	2	-
成果①	屋上緑化等補助金交付件数	件	屋上緑化等の補助件数	2	2	2
				1	1	-
成果②	生け垣等補助金交付件数	件	生け垣等の補助件数	4	4	4
				5	6	-

目標達成状況の分析	B: 活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 広報戸田市に掲載し、PR用チラシの町会回覧をすることにより、PRの効果が申請件数増加に寄与したと考える。
-----------	---

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	26年度	27年度	28年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	＜判断理由＞ 市街化が進み、大きな緑地を確保しにくい本市にあっては、残された樹木や生垣、樹林等を保存し、緑の減少を防ぐことや緑化の普及啓発を図りつつ、新たな緑を増やす取り組みは市内緑化に貢献できているものと考えます。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	26年度	27年度	28年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	＜判断理由＞ 屋上緑化、生垣設置には、多額の費用がかかるため、緑化のための補助金は妥当な経費と考える。保存樹木に指定されているものには補助金は高木が多く、管理には多額の費用がかかるため、最低限の支援として適正な補助額と考える。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	26年度	27年度	28年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	＜判断理由＞ 緑地の確保は、行政のみならず市民と協力して実施していくべきものであるが、個人による緑地の管理が経済面で大きな負担となっている。そのため、補助金を活用して市民の負担軽減を図ることで緑化を推進し、緑を保全することは適正な事業手法と考える。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	26年度	27年度	28年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	＜判断理由＞ 補助額は樹木本数や面積等に応じているほか、保全される緑や新たに設置される緑は広く市民の利益に貢献するもので、環境の向上につながることから、公平性は保たれているものと考えます。

4. 平成28年度中に実施した見直し内容

見直し内容	補助対象となる保存樹木等の数、面積や長さについて申請書の提出を求めたうえで、現地調査を実施しており、実績値に基づいた予算要求を行っている。 駐車場緑化の要件を緩和した。
見直しの効果	適正な数量、面積や長さに応じた執行ができた。 駐車場緑化要件の緩和により1件の申請があった。引き続き効果の検証を実施していく。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了 <input type="radio"/> 平成28年度で終了
	＜判断理由＞ 指定保存樹木等の保全には、市民の理解が不可欠であることから、緑の大切さについて、継続した普及啓発を実施していく必要があると考える。 屋上の緑化、生け垣補助の制度を広く市民が知ることで、補助制度の活用も普及すれば、今後も継続してより多くの緑を市内に残し、新しい緑を創出することが可能と考える。
今後の取組方針	樹木の所有者に対し、指定樹木に該当するようなものがある場合、積極的に新たな指定の手続きをしてもらえよう、促すことも必要と考える。 屋上緑化、生け垣補助については、手続きや利用の方法など、より分かりやすく、使いやすいものとなるよう心がけながら制度の運用を図っていく。

事務事業名	27263 水と緑のネットワーク推進事業														
担当組織	環境経済部 みどり公園課								担当	みどり環境担当					
組織コード	H29	15	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H29	01	08	04	07	02	03	記入日	平成29年06月09日	
	H28	15	06	00		H28	01	08	04	07	02	03			

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	04 緑と潤いのあるまち	● 対象 ○ 対象外
分野	01 緑地・緑化	
施策	38 潤いのある緑地空間の創造	
事業期間	平成19年度～平成32年度	
根拠法令 通達等	環境共生・創造マスタープラン	関連計画 施政方針
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの	
ISO14001	○ 1. 環境創出事業 ○ 2. 施設方針書 ● 3. 環境配慮事業 ○ 4. 対象外	
対象	市民、事業者	
事業目的	自然と共生するまちづくりを市民など多様な主体とともに推進することを目的とする。	
事業内容	水と緑のネットワーク形成プロジェクトの推進のため「戸田ヶ原」の自然再生等事業等を展開する。 また、行動計画に基づく関連各課との調整や推進、国や県との連絡調整を行いながら水と緑のネットワーク形成プロジェクトを推進する。	
実施主体	■ 市による単独直営 ■ 委託 (■ 3セク・財団 □ 企業 □ 市民・NPO) ■ 協働・協力 (企業市民NPO)	

2. 実施結果

		平成28年度 執行額 (千円)	平成29年度 予算額 (千円)	平成30年度 計画額 (千円)	平成31年度 計画額 (千円)	平成32年度 計画額 (千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	戸田ヶ原・水と緑(緑の外環道事業・どんぐり植樹)	戸田ヶ原・水と緑(緑の外環道事業)	戸田ヶ原・水と緑(街路樹エコアップ事業)	戸田ヶ原・水と緑(街路樹エコアップ事業)	戸田ヶ原・水と緑(街路樹エコアップ事業)	
	事業費	24,326	30,367	18,339	8,500	8,500	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	7,321	10,000	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	1,001	2	2	2	2
	一般財源	16,004	20,365	18,337	8,498	8,498	
	人件費	9,177.66	9,177.66	13,698	13,698	13,698	
	投入 人員	常勤職員	1.34人	1.34人	2人	2人	2人
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人
事業費+人件費		33,504	39,545	32,037	22,198	22,198	

目標達成状況	指標名		単位	説明・算定式	H27目標 H27実績	H28目標 H28実績	H29目標 H29実績
	活動①	業務委託契約件数	件	業務委託の契約件数	1	1	1
活動②	定例会開催日数	日	戸田ヶ原自然再生連絡会議の開催日数	2	2	2	
成果①	業務委託執行率	%	業務委託の契約執行率	100	100	100	
成果②	戸田ヶ原イベント開催参加者人数	人	市主催イベント全て(花見イベ等)管理作業除く	700	700	700	
				773	612	-	

目標達成状況の分析	<p>A：活動・成果ともに達成した。</p> <p><判断理由> 業務委託における指標目標について達成できた。サクラソウの自然増など自然再生事業の成果が新聞、テレビなどメディアに取り上げられたことや、市民ボランティアや事業者などの協力により認知度が上がった。戸田ヶ原イベント開催参加者数の減少は「さくらそう祭り」が荒天により開始直後に中止となったことが影響した。今後、更に認知度を高め、市民の誇りとなる取り組みとするため、参加者に積極的に働きかけ、より主体的に参画してもらえよう努めたい。</p>
-----------	--

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	26年度	27年度	28年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 点在する水辺や緑地をネットワーク化することで、市内に生き物呼び込むことが可能となるもので、国や県とも連携を図りながら実施し、自然と共生するまちを実現する。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	26年度	27年度	28年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 国のプロジェクトの一環として始まり、戸田市がモデル地区となっていることから、他の自治体と比較することができないが、既存事業を活用したり、市民や他の主体と協力することで、限られた予算の範囲内で成果を出しており、適正と考える。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	26年度	27年度	28年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 水と緑のネットワーク形成プロジェクト（戸田市地区）行動計画をもとに、各所属と推進委員会を開催するなど庁内全体で事業展開を図る一方、市民や事業者の協力を得ながら推進しており、事業手法は効率的、効果的と考える。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	26年度	27年度	28年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	B	B	A	<判断理由> 自然と共生するまちづくりは、広く市民の利益に貢献するもので、施策の内容については公平性が保たれていると考える。

4. 平成28年度中に実施した見直し内容

見直し内容	国、県、市からなる水と緑のネットワーク推進会議で承認を得た新規事業である外環道の壁面緑化を行う「緑の外環道事業」を実施した。今後も、国、県にもプロジェクトに資する取り組みを呼びかけ、事業を推進したい。また、戸田ヶ原自然再生事業については、戸田ヶ原自然再生事業実施計画追補版に基づき、着実な自然再生を実施していきたい。
見直しの効果	緑の外環道事業については、近隣住民、企業、高校と連携してイベント形式で実施し、次年度も第2期分を実施を予定している。今後も市だけでなく、国、県が主体的に取り組むことを期待したい。戸田ヶ原自然再生事業実施計画追補版については、多様な主体による自然再生の指針することができるものとする。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了 <input type="radio"/> 平成28年度で終了
	<判断理由> 戸田ヶ原自然再生事業は市民や企業と協働して管理を行う等、着実に進んでいる。市街地での水と緑のネットワーク形成については、「緑の外環道事業」第1期分が終了した。今後も事業の目的達成のため、国、県と調整、協力しながら、関係各課と連携して事業を継続する。
今後の取組方針	今後は、戸田ヶ原自然再生事業で培った取り組みを活かし、街中で水と緑のネットワーク化を図る必要がある。そのため、推進会議において情報の共有をしながら、国、県と連携を図るほか、庁内の推進委員会を活用し、関係各課がそれぞれ水と緑のネットワークに資する取組が行えるよう啓発、協力し、事業を推進していきたい。